

令和6年度 第3回 学校運営協議会議事録

校名	府立むらの高等支援学校
校長名	伊藤 誉里

開催日時	令和7年1月29日（水）14:30～16:30
開催場所	共用棟2F 会議室
出席者（委員）	（会長）土口 千恵子 （副会長）上國料 洋子 （委員）三瀬 吉彦 富田 雅信 浦塚 久美子 ※順不同、敬称略
出席者（学校） ※回覧	（校長）伊藤 誉里 【事務局】（教頭）野村 佳津（事務長）山地 千里 藤川 泰生 速水 彬裕 岩里 哲朗 森本 太一朗 重松 亮 橋本 義久 新澤 隼人 遠藤 幸子 鳥井 睦子
傍聴者	0名
協議資料	①協議会次第 ②学校教育自己診断実施結果および分析・考察 ③学校教育自己診断の結果【本校】【共生】 ④公開授業週間・後期授業参観週間アンケート集計結果 ⑤創立10周年記念行事 ⑥令和6年度学校経営計画評価 ⑦令和7年度学校経営計画（案）について
備考	後日、議事録を学校ホームページで公開

議題等（次第順）	
1) 資料確認	教頭より
2) 校長挨拶	
3) 報告	
・ 令和6年度 学校教育自己診断の結果および分析・考察について	首席より
・ 公開授業週間・後期授業参観週間アンケート集計結果について	教務主任より
・ 創立10周年記念行事について（報告）	首席より
・ 令和6年度 学校経営計画および学校評価について	校長より
・ 令和7年度 学校経営計画（案）について	校長より
4) 協議	
5) 校長挨拶	
6) 事務局より	
協議内容（質問・意見の概要）	
【委員からの意見交換及び協議】	
1. 学校教育自己診断の結果および分析・考察について	
・（委員）生徒に向けた『学校へ行くのが楽しい』という設問だけ漠然としているように感じるが、結果について学校としての考え方があれば教えていただきたい。	
・（委員）学校経営計画の中期的目標をめざすとなると、やはり「楽しい」だけではないのかと感じる。	
→（首席）必須項目であり、あえて継続している。何をもって「楽しい」と捉えるのか、教員間でも難しさを感じている。職場実習明けというアンケート実施時期も少なからず影響している。また、卒業後の社会自立をめざして学年進行でステップアップしていく中、「楽しい」という解釈が変化して当然とも言える。	
・（委員）一方、保護者の結果からは安心してむらののに送り出しているように見えるが、PTA 会長としてはどうでしょうか？	
→（委員）むらののは厳しい面もあるが、就職した際に他の学校と比べて定着率が高いと聞くこともあり、保護者は感謝していると思う。	
・（委員）『将来の進路や生き方について考える時間がある』の肯定率が高い。ワクワク、ドキドキという「楽しい」だけでなく「達成感」を、むらのの3年間の中で考えているのだと思った。	
・（委員）教員のアンケート結果を見ると、学校行事において魅力あるものにする創意工夫も行っており、卒業後の社会的自立を促すために、生徒にとっては厳しいことがあるかもしれないが、先生方はしっかりとそれを分かったうえで教えていくことを抑えているように感じる。	

- ・（委員）アンケートを行う際に生徒に対して何かアシストはされているのか。
→（首席）実施の説明はしているが、自己診断の内容についてはしていない。
- ・（委員）中学校と高等支援学校とのギャップが激しい。中学からの進路選択が広がる中、高等支援学校で納得して学ぶために高等支援での学習の意味を送り出す側の中学校に伝えていく必要がある。
→（首席）むらのセミナーを実施しているが、単に受験生を増やすような目的ではなく、高等支援学校のコンセプトを理解したうえで、送り出してもらうように中学校の担当者に伝えている。
- ・（委員）質問項目に新任教員の教育とあるが、どのようにされているのか。
→（教員）教職員が協働体制をとり、経験のある教員が支え、育てていくという姿勢が職場にはある。初任者だけでなく経験の浅い教員にも学校の教育方針を伝え、共通理解のもとに生徒たちを導いていけるような体制や研修をしている。年度当初に詰め込み過ぎが現状の課題と言える。初任者については初任者研修と合わせて、学年団を中心に相互サポートに取り組んでいる。
→（首席）研修だけではなく、職場として実際に働きながら伝達していく必要がある。1人担任制や学年と分掌業務の分業制を改め、校内組織を組み換えたことで、日常的に誰かと組んで仕事をする機会が増え、仕事を協働しながらのOJTも増えている。
- ・（委員）農業が本格的で農協などに就職しても十分通用するのではないか。就職先は大体決まっているところなのか。
→（教員）〔3年生の進路先について現況報告をする。〕昨年、雇用率が引き上げられたこともあり、会社から複数の生徒を紹介してほしいと言われることもある。また、継続雇用していただいている会社もあるが、新規のケースもある。

2. 令和7年度 学校経営計画について

- ・（委員）めざす学校像で「個々のニーズをふまえた」という文言が追加されており、画一的な指導、支援ではなく、子どもが見える形になった。すでにこれまで取組んでこられたことを一歩踏み込み、進められたように感じた。
- ・（委員）就労をめざす学校で色々大変なことがあるのはわかるが、特別扱いにならない必要な支援はして欲しい。
- ・（委員）枚方、寝屋川、交野の人事担当者が意見交換する場で、むらのの生徒がすごく礼儀が正しく、就職のための挨拶ではなく、いろんな場面で普段から自発的に挨拶ができるというのがすごいという話があがった。むらのの生徒だけがちがうという話があがった。
- ・（委員）就職をめざすために入ってきた学校であることは生徒も保護者もわかっていると思うが、就労継続支援B

型や福祉事業所のことは、どのように思って、生徒たちは卒業していくのか。

- （教員）福祉事業所に関しては懇談等で話をしている。目標としてはその先長く働き続けてもらいたいということがある。雇用率の関係で会社様から声をかけていただけるが、続くのかという問題がある。目先のゴールではなく、その先のために福祉の進路を提案することもある。1年生の時から情報提供をしている。
- ・（委員）実習体験の積み重ね方が大事であるが、先生方はどのように考えているか。
→（教員）実習の積み重ね方に関しては、4回の職場実習を学年団や進路で検討しながら進めている。それぞれの職場で、必ずうまくいくというあてはめ方を必ず4回とも行っていない。本人のニーズや特性を本当に見極めるために色々な職種を経験してもらう。それらの評価を蓄積し、本人の得意とするところをマッチングしていくことになる。仕事だけでなく、バスや電車などの通勤手段や、近い・遠いの通勤距離等も含めて体験してもらっています。

◆令和7年度 学校経営計画の「1. めざす学校像」「2. 中期的目標」について委員より承認をいただく。本日の議題に対して具体的に検討し、次年度に報告をしていく。

以上